

大妻手芸教育の社会的影響

—明治・大正時代における女子教育と手芸文化の関連（２）—

Social impact of Otsuma education of handicrafts

—The women's education and the culture of handicrafts in Meiji-Taisho era (2)—

中川 麻子

Asako Nakagawa

大妻女子大学家政学部

Faculty of Home Economics, Otsuma Women's University

キーワード：大妻コタカ、手芸、女子教育

Key words : Kotaka Otsuma, Handicrafts, Girl's education

1. 研究目的

大妻コタカは、他に類を見ない充実したカリキュラムと高度かつ合理的な手芸教育システムを作りあげた。さらに職業人・指導者育成に留まらず、対象を一般婦人にも広げ、多くの女性に優れた手芸教育を行った社会的功績は大きい。

大妻手芸教育を再評価することは、現在の女子教育分野にも重要である。本研究は、大妻女子大学の学祖である大妻コタカによる手芸教育の全貌を明らかにし、大妻手芸教育の詳細と社会的影響を明らかにすることを目的とした。

今年度は次の３項目について行った。まず第１に大妻女子大学博物館所蔵の学生・教員による手芸作品の悉皆調査するとともに、大妻コタカの著作と当時の書籍と照合した。さらに大妻の手芸作品を他大学の手芸作品と比較し、大妻手芸教育の特徴と社会的影響を明確にした。

第２に初期の大妻手芸教育について、作品および技法の詳細を捉えるために、函館大妻所蔵の手芸作品について調査した。

第３に大妻女子大学家政学部被服学科の手芸過程の詳細と変遷を明らかにするために、卒業生のインタビューを行った。

2. 研究内容及び成果

大妻女子大学は、大妻コタカによって明治 41 年に手芸と裁縫を教授する私塾として始まり、現在までその伝統が受け継がれてきた。明治時代初期から開始された日本の初期女子教育では、手芸と裁縫に関する教育が重要視されており、大妻でも

同様であった。

大妻における手芸裁縫教育の詳細を明らかにすることを目的として、大妻女子大学博物館に所蔵されている学生および教員政策の手芸と裁縫の作品の調査を行った。これまで作品形式等から、大正時代末期から昭和時代前半のものと見られてはいたが、詳細は不明であった。作品には仮所蔵番号がつけられリスト化されていたが、制作者および制作年代が不明の資料が多く、また実際とは異なる技法名がつけられた作品もあった。

筆者は平成 26 年 11 月～12 月に 267 点を調査し、平成 27 年度はこれらについて調査を行った。

大妻女子大学博物館所蔵の手芸裁縫作品のうち、調査の結果、所蔵作品は「手芸作品」、「裁縫雛形」、「その他」の 3 項目に分けられ、さらに手芸作品は 12 の手芸技法によって分類できた。

またこれらの作品を大妻コタカの著作類と照合したところ、昭和 2～5 年頃の出版物掲載の作品と類似するものが多かった。作品形式や技法などから、今回の調査対象である手芸裁縫作品は、大正時代末期から昭和 10 年ごろ制作されたものであることが分かった。また調査した作品の大半がレース類であり、テーブルクロスなどの実用的な作品が多いこと、課題作品の内容から、大妻では合理的に学べるようカリキュラムが工夫されていたことがわかった。このことから、大妻女子大学所蔵の手芸裁縫作品は、大正時代末期から昭和 10 年頃までの大妻の手芸教育の内容を伝える重要な資料であることが明らかとなった。

さらに同時期に手芸教育が行われていた和洋裁

縫伝習所、共立女子職業学校、女子美術学校所蔵の刺繍見本と比較を行った。その結果、高度な職業的刺繍を目指した共立、美術としての刺繍を目指した女子美、専門的かつ高等教育の指導者育成を目指した模範的な刺繍の東京家政（和洋裁縫伝習所）といった特徴が明らかになった。またこうした其々の特徴は、学校設立時期に影響されたと考えられる。

大妻が創立した大正時代前期は、すでに職業的・専門的な手芸教育が広がりを見せ、手芸教育への社会的期待は大きく、受講希望者が増加した時期であった。大妻では教員養成および職業的訓練と共に、家庭の主婦や一般の女性に向けた教育も行われていた。この方針が日本刺繍と欧風刺繍の両方をバランスよく取り入れた実務的な刺繍に現れ、また大妻の所蔵作品に装飾的用途の作品が多い理由のひとつであると結論づけた。

次に、平成 27 年 8 月に函館大妻高等学校において、大妻技芸学校出身であり函館大妻の初代校長であった外山ハツによる刺繍額と、教員・学生による手芸作品の撮影・調査を行った。

函館大妻技芸学校（現函館大妻女子高等学校。以下、函館大妻と呼ぶ）は、大妻技芸学校の卒業生である外山ハツによって、大正 13（1924）年に函館市蓬萊町に創立された。昭和 36（1961）年に函館大妻高等学校と改称、平成 15（2013）年には創立 90 周年を迎えた女子教育学校である。

同校には、大正時代後期から昭和時代にかけて教員、生徒等による多数の手芸作品が所蔵されている。東京都千代田区の大妻女子大学博物館も、大正時代後期の卒業生と教員による手芸作品が多数所蔵しており、現在、調査が進められているが、関東大震災と戦災によって、大妻技芸学校創立時である大正時代末期の現存作品は少ないと見られている。特に、当時の学科で重要視された刺繍については現存作品が乏しく、書籍の記述および画像資料から伺い知ることしかできない。

これに対し、函館大妻には大妻技芸学校創立期の卒業生である外山ハツによる手芸作品と、大正時代末期から昭和時代前期にかけて学生および教員が制作した手芸作品が現存している。これまで函館大妻の手芸作品の存在は知られてきたが、詳しく調査されたことはなかった。

筆者はにおいて 30 点の手芸作品について現物確認、計測・撮影を行った（図 1）。観察した作品は大正時代末期から昭和時代前期のものと思われ、

外山ハツ、学校教員、学生によって制作されたものである。30 点の作品の技法別内訳は、刺繍 16 点、摘細工 5 点、木目込み人形 4 点、押絵 3 点、マクラメ 1 点、水引細工 1 点、モール細工 1 点であった。

函館大妻の手芸作品は刺繍、水引、つまみ細工など、明治時代に行われていた手芸教育に倣った内容であった。また、これまで千代田校においては、創立初期の刺繍の現存作品は見つかっていなかった。これに対し、函館大妻が所蔵する外山ハツの刺繍作品は、美術的価値の高い絵画風作品であることから、大妻技芸学校創立期に、明治時代からの流れを組む美術刺繍教育が、大妻においても行われていたことが明らかとなった（図 2）。また教員、学生による刺繍作品の技法変化から、外山ハツの高度な刺繍技法を、徐々に簡略・合理化しながらも、次の世代に刺繍技法を受け継ぐ工夫がされていたことが分かった。

これまで千代田校では、大正時代～昭和時代初期の刺繍教育については、文献および画像資料でしか確認することができなかった。画像に残っている刺繍作品も、いずれも小型～中型の額にとどまっていた。このため、大型刺繍作品の現物は、この函館大妻所蔵の作品に限られる可能性が高い。

以上の調査から、函館大妻の手芸作品は大妻手芸教育を知る上で貴重な資料であることが確認された。さらに学校創立期の大妻手芸教育では、明治時代の美術刺繍を受け継ぐ芸術性の高い刺繍教育と、明治時代に開始された一般的な女子手芸教育を踏襲した実用的な手芸教育が行われていたことが明らかとなった。

大妻の手芸課程の変遷を知るために、大妻女子大学の卒業生 4 名に対しインタビューを行った。その結果、大妻女子大学の設立時に、手芸関連のカリキュラムが大きく変化し、刺繍や編み物などの大正時代以来継続されてきた手芸関連の科目が減少するなど、大学設立時に手芸科目の教授内容が大きく変化したことが分かった。

3. まとめと今後の課題

本研究の主な成果は、以下の 3 点である。

- ① 本学博物館所蔵の手芸作品の調査および大妻コタカの著作掲載作品と雑誌掲載作品と比較から、本学博物館所蔵の手芸作品は、大正時代末期から昭和時代初期のものが多く、他学と比べ実用的かつ合理的な技法で制作された手芸

作品が多いことを明らかとした。

- ② 函館大妻高等学校において、大妻技芸学校出身であり函館大妻の初代校長であった外山ハツによる刺繍額と、教員・学生による手芸作品の撮影・調査から、函館大妻の作品群はこの時期の大妻手芸教育の詳細を知る貴重な資料であることが分かった。
- ③ 大妻の同窓生 4 名に対してインタビューを行い、設立時の手芸関連のカリキュラムについて調査した。その結果、大学設立を契機として大妻手芸教育のあり方が変化したことがわかった。

本研究から、大正時代から始まった大妻コタカによる手芸教育の初期の教授内容、作品詳細を示すことができた。さらに、大妻の手芸教育は昭和時代初期に専門的な職業から一般の家庭婦人といった様々な職種の女性達に向けて行われ、大きな社会的影響力を持っていたことを確認することができた。

函館大妻には未調査の手芸作品が所蔵されており、大妻手芸教育の実像を捉えるために継続した調査が必要である。また、大妻コタカは婦人雑誌や一般書籍への寄稿も多く、これらの書籍から、大妻手芸教育が大きく発展していく昭和時代初期の様子を捉えていくことができると考えられる。今後は、昭和時代から戦後、大妻女子大学設立時までの大妻手芸教育の変遷を捉えることが課題である。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1]中川麻子「大妻女子大学博物館所蔵の手芸裁縫作品調査報告(1)」人間生活文化研究, 査読無, No. 26, 2016, 22-30 頁

[2]中川麻子「函館大妻技芸学校の手芸教育」平成 27 年度大妻女子大学家政学部紀要, 査読無, 2016 年, 印刷中

②学会発表

[1] 中川麻子「明治～昭和時代前期における女子教育機関の刺繍見本」平成 27 年度服飾文化学会, 2015 年 5 月 16 日, 大妻女子大学(東京都千代田区)



図 1. 「天女鳳凰吉祥図押絵熨斗」函館大妻所蔵

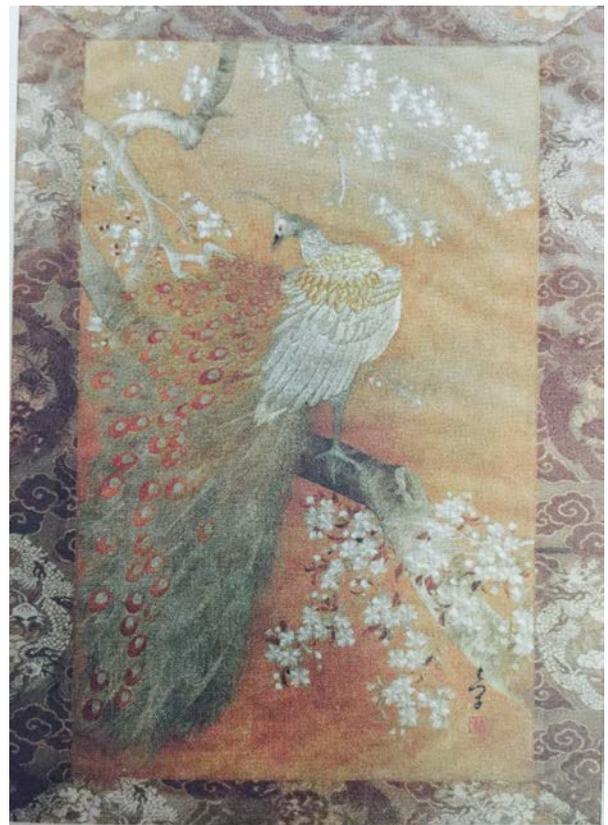


図 2. 外山ハツ作「櫻下の孔雀刺繍額」函館大妻所蔵

(2016 年 3 月 31 日現在)